

NATO リーダーによるロシア侵略の陰謀：ワルシャワ声明

【訳者注】一つ前の論説で紹介された、7月9日の NATO ワルシャワ・サミットの声明文が、更に詳しく解説されている。試みに、3-4 ページに引用された一節を読んでみていただきたい。これは、ここで何度も解説した「アメリカ例外主義」の典型的な例で、偽善や独善を通り越したこの文章に、怒りに震える人もあるだろう。このあまりにも見事な現実の裏返しに、捧腹絶倒する人もいるだろう——「ワオ、よくぞ言った！」論者が繰り返し言うように、これを書き発表する者たちは、もちろんこれがウソだと知っている。彼らは、ヒトラーやゲッベルスのように、ウソでも徹底的に繰り返せば民衆は信ずると信じている者たちである。わが国の新聞社に提言する。ちょっとこの一節を、新聞トップの、「ロシアのドーピング」スキャンダル記事の横にでも、並べて載せてはどうか？ この泥棒の説教のような、人を食ったプロパガンダを、何の疑いもなく信ずる人がどれくらいいるだろうか？ 今は、ナチスの時代とは違って、人は賢くなっている。新聞が歴然たる戦争犯罪に加担するなら、我々は命を守るために、反メディア運動、反プロパガンダ・キャンペーンによって対抗するしかない。

Christopher Black

Global Research, July 19, 2016; New Eastern Outlook, July 18, 2016



私は生涯のほとんどを弁護士として過ごしてきたので、起訴のための証拠を集めることには慣れていない。しかし状況証拠によって、私は、国際刑事裁判所、あるいは何らかの将来の市民裁判所の検察官のために、あるファイルを公表せずにはいられなくなった。ここには、NATO のリーダーたちが、人類に対する最も重い罪である侵略犯罪について、有罪とされるべき証拠が含まれている。私はこのファイルから興味あるいくつかの箇所を読者に示して、ご一考を乞うことにする。

国際刑事裁判所の支配的成文法、「ローマ規程」第 8 条は、このように定めている——

この成文法の目的のために——“侵略犯罪”とは、効果的に支配力を及ぼし、または国家の政治的ないし軍事的行動を命ずる立場にある者によって、その性格、深刻さ、規模

が、国連憲章の明らかな侵犯となるような侵略行為を、計画、準備、開始あるいは実行することを意味する。

7月9日のワルシャワ会議で発表された NATO の声明文は、NATO リーダーによる、ロシアに対するこのような計画と準備、したがって侵略行為を犯そうとする陰謀の、直接の証拠である。したがってそれは、国際刑事裁判所による NATO 軍事同盟の起訴を立件すべきものだが、ただし国際刑事裁判所の検察官が本当に独立していれば、ということ、実はそうではない。そしてもちろん、侵略犯罪に関する条項が有効であるならば、ということだが、それは「ローマ規程」の条項のもとでは、2017年1月1日まで発効しない。

にもかかわらず、この時点で、NATO リーダーに対する起訴状の提出を妨げる、法的な専門的な問題があったとしても、それは、NATO の声明文にあるような侵略行為の計画と準備を合法化するものではなく、この「規程」と「ニュルンベルク原則」に定められた侵略犯罪の道徳的重大さを軽減するものでもない。侵略犯罪は最高の戦争犯罪になっているからである。

彼らの7月9日の声明の、文書に印刷された彼ら自身の言葉に則って、NATO リーダーの一人ひとり、および一つひとつの NATO 国の軍参謀全体が、侵略犯罪の観点から有罪である。彼らが裁判のために連行されるべき、有効な機関がないという事実は、侵された犯罪の事実には関係がない。彼らは人類の敵であり、起訴されようとされまいと、裁判にかけられようがかけられまいが、そのような者として認識され、彼ら自身の人民から糾弾されるべき犯罪者、国際的なアウトローである。



彼らの犯罪の証拠は、もちろん、この声明文より前から存在し、NATO 諸国による長年の度重なる行為からなっている。それは、ソビエト連邦とワルシャワ条約の崩壊にまで遡る。そのとき NATO との合意として、1997年に NATO - ロシア基本協約が結ばれたが、それは NATO が、以前に、ワルシャワ条約またはソ連邦の加

盟国であったどんな国家にも拡大せず、核兵器も置かないことを約束するものだった。

NATO はその後、その約束を破り続け、組織として、また加盟国の集団として、ユーゴスラビア、アフガニスタン、イラク、リビア、ロシア（南オセチアへのグルジアの攻撃のとき、またロシア内部のチェチェン・テロ集団の助けを借りて）、ウクライナ、そしてシリアに対

して、侵略行為を犯してきた。そのそれぞれの侵略行為が、これらの犯罪を合法的として正当化しようとする、大規模なプロパガンダ・キャンペーンに支えられていた。西側のマスメディアは、彼らの洗脳の対象となる人々に、このプロパガンダを植え付けることによって、すべてこの犯罪の共犯者である。

この同じ権力者たちは、朝鮮民主主義人民共和国、イラン、および中国に対し、更なる侵略行為を犯し、今もそれが続いている。すなわち、これらの国家に対する侵略の計画と準備を絶えず増大させている。これらの計画は NATO の声明文にも表明されているが、人類に対する最も深刻な脅威は、ロシアに対する、差し迫った、生き残りの脅威で、この声明文の主要な部分はそのに向けられている。

NATO の声明は、実は、ロシアに対する宣戦布告である。それ以外に、それを解釈することはできない。

何か月も前に私はこう言った——NATO の東ヨーロッパでの戦力増強も、ウクライナのヤヌコビッチ政府を倒した NATO のクーデタも、セバストポリのロシア海軍基地収奪計画も、NATO のクーデタを受け入れることを拒否した東ウクライナ市民への、即刻の襲撃も、ロシアを“侵略者”として絶えず排撃するプロパガンダも、“制裁”の名のもとにロシアに対して行われる経済戦争も、そのすべてが、1941 年の「第三帝国」のソ連侵略、すなわちバルバロッサ作戦の再来とみなしてよい。私はそういう説明を初め躊躇した。しかし事実ははっきりしており、他の人々もこのアナロジーを正しいと認めている。そして、第三帝国のリーダーたちが、最後には、ニュルンベルグで彼らの犯罪の責任を問われたように、アメリカやその従僕国が、我々残りの者たちに押し付けようとしている新しい「帝国」のリーダーたちも、そのようになるであろう。

この声明の第 5 パラグラフとそれに続く部分で、彼らは、ロシアへの“侵略行動”と考えられるものを明確にすることによって、犯罪の最初の部分を犯している。そのすべての例において、彼らは本物の侵略者になっている。

パラグラフ 15 で、彼らは、“NATO とロシアのパートナーシップ”について空虚なことを述べたあと、こう言っている——

2014 年以来、同盟国と国際社会の、ロシアに対する、コースを変えるようにという度重なる呼びかけにもかかわらず、その関係のための諸条件が今も存在していないのは残念である。この同盟のロシアとの関係の性質や、パートナーシップを重んずる気持ちは、国際法の順守、国際的義務や責任を果たそうとする意欲を示す、ロシアの行動の、

明らかな建設的な変化いかに懸っている。そうなるまでは、我々は“平常の関係”に戻ることはできない。

ロシアが“コースを変える”と彼らが言っている意味は、もちろん、彼らの命令を聞くという意味であり、“国際法の順守”とは、NATOの絶対的命令の順守という意味である。世界は、マデリン・オールブライトが、ユーゴスラビアのミロシェビッチ大統領に、彼女の長い要求リストを突きつけ、彼が大胆にもそれを蹴ったときに、ユーゴに何が起こったかを目撃している。それはNATO軍によるユーゴスラビアの占領、社会主義の引き倒しであり、命令に従うか爆撃かの選択であった。ユーゴスラブ政府は、彼らを見捨てるだけの権利と勇気を持ち合わせていた。するとNATOのリーダーは暴力団、懲戒屋を雇い、彼らの軍隊の隊員である殺し屋を使って、「非同盟運動」のある創始者を殺す活動を始めた。

我々はそれを再びアフガニスタンで見た。アフガニスタンは、犯人ということになっているビン・ラーディンを匿ったという法的口実で侵略されたが、彼は決して罪を問われたことはなく、1998 - 9年の間、コソボのアメリカ司令部の下で働き、ユーゴスラビア政府と戦っていた。

イラクでも同じことが起こった。イラクは、決して持っていない武器を差し出すように命令され、“ショックと威圧”戦法で攻撃された。これはイラクだけでなく、全世界に向けられた軍事力の誇示で、人が言うことを聞かないときに、よく使うやり方である。

我々は、ハイチのアリスティド大統領にもこれを見た。2004年、アメリカとカナダの兵士が、彼に銃口を突きつけて逮捕し、鎖につないでアフリカへ追放したが、世界は見て見ぬふりをした。2011年、NATOが、社会主義体制のリビアを壊滅させたときもそうであり、現在、彼らは同じことを再び、シリア、イラク、イラン、北朝鮮、中国、そして最も重要だが、ロシアに対して試みている。

パラグラフ 15 は、絶対的命令以外の何ものでもない——「我々に従え、そうでないと我々は平常の関係に戻れない。」ということは、究極的に戦争を意味する。

それから、すべてがロシアの罪だという出来事についての、ウソと歪曲の、長い一連のパラグラフが続く。彼らはこれらがウソと歪曲であることを、もちろん知っている。しかし肝心の点は、これらの声明文がワシントンにおいて、プロパガンダ・デバイスとして作り出され、西側メディアによって繰り返し引用され、彼らの外交官や政治家のあらゆるスピーチで言及されるように、意図されていることである。

パラグラフ 35 以下では、彼らは、自分たちの新しいバルバロッサ作戦、東ヨーロッパでの NATO 軍の増強に言及している。彼らはそれを“即応行動計画”(Readiness Action Plan)と呼んでいる。言い換えると、すべてこれらのパラグラフは、ロシアを攻撃する補給および戦略能力を準備するための、彼らの計画を述べたものである。彼らが本当にそうする意図をもっていることは、ポーランドやルーマニアに、そしてやがてロシアの南東の脇腹、韓国に、対ミサイル・システムを設置しようとしていることから、いよいよ明らかになった。これは、NATO 核戦力によるロシアへの核先制攻撃の成功を、確実にするためのものである。対ミサイル・システムは、ロシアの生き残りたちの発射するどんな報復ミサイルをも、インターセプトするのが目的である。しかし、プーチン大統領が指摘したように、それらは容易く攻撃用としても使えるようになっている。

彼らは次に、核兵器は彼らの戦略の重要な部分であることを強調し、パラグラフ 53 ではこう言っている――

NATO の核抑止能力は、一つには、アメリカの核兵器がヨーロッパの前線に配備されていることと、同盟関係国の保持している能力とインフラストラクチャーにも、依存している。

恐ろしいのは、ポーランドや北極海で最近、行われている演習――ロシアに向けられた核弾頭巡航ミサイルのような核兵器を発射する空爆が、その主たる内容だった――に見られるように、アメリカと NATO 同盟軍が、ロシアへの核攻撃を計画し準備していることである。これが唯一可能な結論である。なぜなら、ロシアが東ヨーロッパでも他のどこの国でも、攻撃する意図をもっていないのは明らかであり、したがって、ヨーロッパへの核兵器の配備はロシアの“侵略”を抑止するためだという口実は、ウソとして設けられたものでしかなく、したがって、それらの設置の目的は、ただ一つ、攻撃に使用することではありえない。

証拠は我々の前にある――完全な書類一式である。それは机の上に、誰の役にも立たず、ほこりをかぶって置かれている――ただ世論という裁判所を除いて。だがそれも、きょうび、何の力があるだろうか？ しかし、きっと誰かがそれを取り上げ、それを発展させて、裁判所に提出するだろう――おそらく、人民の、人民のための、人民が設立した、人民を殺す計画をする者を裁くための裁判所であり、それは、ロシアに対し、我々すべてに対し最後の侵略犯罪が行われる前に、すみやかに機能するであろう。

(クリストファー・ブラックは、トロントに居住する国際刑事裁判弁護士。彼はアップー・カナダ法律協会のメンバーとして、人権や戦争犯罪にかかわる有名な多くの事件によって、特に、オンライン雑誌 New Eastern Outlook で名を知られている。<http://journal-neo.org/>)